



徳永社長より挨拶

皆様方のご理解・ご協力のおかげで、当社の経営は発足以来、順調に利益を上げ、生産性の向上が図られてきました。経営農地約330haの農地を耕作放棄地にすることなく、生産・管理の持続的農業が継続されていることは、「集落営農法人」ネットワーク大津株式会社の地域に合わせた仕組みづくりと、構成員株主の理解と努力の賜物と感謝申し上げます。

さて、昨年5月に「食料・農業・農村基本法」が25年ぶりに改正されました。

今、担い手が減少する中、「食料・農業・農村基本法」が掲げる課題を克服するための経営体の姿はどのようなものか、国が推進する産業政策型経営体と当社のような農村コミュニティをいかにしながら、世代間を超えて、生涯現役で農地・農業・環境の維持保全を行う仕組みを構築し、地域社会と連携しながら、次世代の担い手を育成する地域政策型（コミュニティ型）経営体をバランスよく育成していくことが重要であると考えます。

異常ともいえる気象環境（温暖化）の影響で、年々、麦・大豆等の品質・収量が低下傾向にあり、構成員の安定した所得を確保するための、作物の耕種基準・品種等の見直しが喫緊の課題となっています。当社はそれをいち早くとらえて、九州沖縄研究センター・熊本県県北広域本部の皆様と連携、ご指導を頂きながら、大豆極多収性品種「そらみのり」への全面転換を行ってきました。令和6年度の実績として、製品重量が、「フクユタカ」10a当り135kgに対し「そらみのり」241kgと178.5%の実績となりました。スマート農業として大豆多収性栽培支援AIの開発にも協力し、AIソフトを試験使用することで、様々な機能の充実を実用に向け検討をしていただいています。また、麦についても、大麦「はるしずく」にかわる「はるか二条」を各関係機関と連携しながら、令和9年度から全面転換することとなりました。引き続き実証試験栽培を実施していく予定です。

又、耕畜連携による水田機能の保全と自給率の向上、特に飼料用稲（SGS）を中心に、地域資源を生かした牛のエサを生産することにより、自給率の高い安全・安心・安価なTMR飼料を、製造供給することが出来ています。原料を調達する中、大津町単位では、耕畜連携が成り立たなくなっている現状を踏まえ実績をもとに、飼料用米、粗飼料、粕類(かするい)を含め調達エリアを九州一円に拡大しながら、安定したTMRセンター事業を進めてまいります。

本年度、第2機械倉庫、並びに用地購入をいたしました。その東部地区において、現在、第2機械倉庫を拠点として、農業機械が効率的に運用され、集落がより連携をしながら、生産性の向上が図られてきました。東部地区の拠点として、より効率的な農業機械の運用ができ、生産性の向上に結び付けば、これまで以上に、安定した経営と構成員の所得向上が図れると確信しています。

又、畑地対策として2027年に向け2年4作（麦・子実トウモロコシ・麦・大豆）の試験栽培に取り組みます。土作りによる連作障害の回避と安定した収量の回復に努めてまいります。子実はTMR原料として保管技術試験を行う予定です。

ネットワーク大津では約330haに及ぶ経営農地を抱え、TSMCの進出に伴う農地また地下水の問題等、大津町農業に大きな影響を与えるため、株主でもある大津町町長に相談役に就任して頂きました。これまで以上に行政と緊密な連携を取りながら経営に取り組んでまいります。

子供たちが将来、地域の担い手として、活躍できる環境を作っておくことが、今の私たち世代の責任であると考えています。

新しい役員体制の基、今後とも「集落営農法人」ネットワーク大津株式会社に、皆様方のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げながら、簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。

第13回定時株主総会

9月2日に第13回定時株主総会が開催されました。保有株式に応じた株数での賛・否にて、第1号議案から第3号議案まで原案通り可決されました。

また、今回取締役14名と監査役1名の任期満了に伴い、新たに就任がありました。前役員の皆様、大変お疲れ様でした。(P3役員紹介をご覧ください。)



TMR事業報告

令和6年度の出荷実績は過去最高の四五〇〇トの出荷量となりました。製品としては、水の恵み1号・4号の出荷量は減少し、製品単価が高い2号・肥育中期の出荷量が増えている傾向にあります。総合的に見ると売上高は前年より高くなっている状況です。7年度については出荷先のお客様から供給を増やしたいというありがたい要望もあり、目標出荷量を五〇〇〇トに設定し業務に励む所存です。

6月末時点での在庫数	
繁殖	111,523Kg
肥育	689,493Kg
搾乳	231,593Kg

	TMR(繁殖)		TMR(肥育)	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
7月	92,933 kg	80,949 kg	292,893 kg	245,166 kg
8月	76,922 kg	77,199 kg	232,363 kg	208,012 kg
9月	98,409 kg	60,018 kg	117,628 kg	217,544 kg
合計	268,264 kg	218,166 kg	642,884 kg	670,722 kg

	TMR(搾乳)		3ヵ月分合計	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
7月	0 kg	58,410 kg	385,826 kg	384,525 kg
8月	10,394 kg	47,796 kg	319,679 kg	333,007 kg
9月	50,635 kg	45,532 kg	266,672 kg	323,094 kg
合計	61,029 kg	151,738 kg	972,177 kg	1,040,626 kg



役員紹介



監査役
小西 良輝



監査役
斉藤 清文



取締役副社長
月尾 正一



代表取締役社長
徳永 浩二



内取取締役
中野 一郎



外取取締役
阪田 正彰



錦野取締役
田中 智顕



大林取締役
西本 晶



次田取締役
西本 雄一



森取締役
亀井 重登



上陣内取締役
斉藤 和彦



中陣内取締役
桐原 則雄



鍛冶取締役
樋口 陽一



所取締役
上田 俊継



新取締役
岩下 秀一郎



取締役
古庄 寿治

水稲

今年度は気候の影響から水稲の圃場に雑草が繁茂している状況が多く見られ、SGの収穫を目前とした9月中旬までSGS作付者はその対応に追われました。今回、

TMRSエンターよりSGS製造時に籾の破砕機が詰まる要因のひとつとして、水分を多く含むヒエの穂が混入することによって破砕機が詰まりました。対策としてSGSの作付圃場においては最低限ヒエ(穂先だけでも)の除去を行うよう各集落に通知しました。また、一部圃場ではヒエだけではなくギザギザとした印象を受ける雑草「ホソバヒメミソハギ」の発生が著しい状況ではありましたが、ヒエとは違い収穫時に収穫物への混入が少ないとされ、完全除去を行う必要性は無いと判断されました。ただし、収穫時には硬質化した茎による刈刃の消耗と刈取部上部に堆積することによる作業性の悪化から、収穫作業への悪影響は否めない状況ではあります。当雑草は、十分な湛水下ではほとんど発生が見られず、田面が露出する中干し頃から発生したと思われると思います。特に中干し後の圃場で水の掛かりが悪い場合や、田面が高くなった部分等での発生が多いようです。次年度以降の対策として、中干し後に除草剤散布を行うことが効果的ではありますが、粒剤か液剤、散布方法、有効成分、SGSへの登録が取れているか等の確認・検討すべき事柄が多く、農薬の選定に時間を要しています。



一年草：ミソハギ科
・ホソバヒメミソハギ

草丈は最終的に稲と同程度まで伸び、隙間なく繁茂している圃場が多く見受けられました。



今後の予定

毎月 第1月曜日 定例取締役会

10月6日 令和9年度(産)作付計画書の配布
10月6日 令和8年度農作業受委託契約書配布
10月23日 稲刈り体験
11月上旬 令和9年産 水稲育苗注文書の配布

11月中旬 作業委託管理費の支払い(麦精算)
12月上旬 大麦・小麦播種開始
12月下旬 作業委託管理費の支払い(年末精算)
12月29日 仕事納め



[お問い合わせ先] ネットワーク大津株式会社 熊本県菊池郡大津町陣内 427

TEL 096-285-4080 FAX 096-285-4909

HP <http://www.network-ozu.com>

発行責任者：徳永浩二

広報責任者：右田哲章